

The best relationship

第二学年通信 No 15

～最高の仲間たち～



2018,5,15.

今日5月15日は 沖縄本土復帰記念日

46

沖縄タイムス 5/12(土)

復帰46年「5・15 平和行進」が11日、名護市のキャンプ・シュワブゲート前と那覇市の県民広場でそれぞれ出発式を開き、スタートした。13日まで。初日、中北部コースは500人が金武町までの約17キロを、南部コースは380人が糸満市までの約19キロを行進。基地のない平和な沖縄の実現を訴えた。



沖縄タイムス 3/5(月)

原爆と地上戦

核兵器廃絶と基地排除 広島的大学生ら、沖縄戦跡歩き 平和考える

広島経済大学の岡本貞雄教授のゼミの学生や県内大学生ら約50人が1日から、沖縄戦跡を歩く「オキナワを歩く」を行っている。今年で12回目。3日は大雨の中、名護市の北部病院から本部町の八重岳野戦病院跡まで約12キロを歩いて戦争体験者の話を聞き、黙とうをささげ、それぞれの平和を考えた。野戦病院跡では元女子学徒隊員の上原米子さん(91)

*戦場の後方に、戦傷者を収容し応急手当を施すために
臨時におかれる病院

や、元 鉄血勤皇隊員の大城幸夫さん(89)から当時の体験を聞いた。上原さんは「生きて話ができる私は幸運。みなさんが悲惨な目に遭わないように語り継ぐし、みなさんも周りの人と話をしてほしい」と訴えた。

参加した香田峻也さん(3年)は「沖縄と広島の戦争の違いを考えながら歩いた」と感想。「原爆が落ちた広島は核兵器廃絶に向かったが、地上戦を経験した沖縄は基地排除に向かった。亡くなった若い命を考えると、自分も恥ずかしくない後悔しない生き方をしたい」と語った。河野裕次さん(同)は「過酷な体験を学び、命の尊さを考えた。戦跡巡りも生きているから、健康だからこそできることに感謝したい」と表情を引き締めた。

* 鉄血勤皇隊 *

戦前、沖縄には21の中等学校がありました。沖縄戦では、これらのすべての男女中等学校の生徒たちが戦場に動員されました。女子学徒は、15歳から19歳で、主に看護活動に男子学徒は、14歳から19歳で、上級生が「鉄血勤皇隊」に編成され、軍の物資運搬や爆撃で破壊された橋の補修などにあたりました。沖縄戦により、学業半ばで多くの学徒が短い生涯を散らしました。



北村先生の話聴いて No.2

北村先生の話聴いて、礼の仕方や物の渡し方などいろいろあるんだなあ…と思いました。例えば礼のやり方だったら、3m先を見ての礼や1.5m先を見ての礼など、細かいなあと思ったけど礼にもいろいろあるので活かしていきたいと思いました。他にも物を渡すときには、相手の方を向いて両手で渡すのは、いいなあと思いました。クルッとまわして相手の方に揃えて渡すのは、かっこいいなあと思うので自然にできるようにがんばりたいです。

はじめ、とても怖そうな方が来られるのかなあと思っていました。ですが北村先生は優しく話しの分かりやすい方でとても良かったです。一番印象に残ったのは、物の受け渡しの方法です。少しは気をつけているつもりだったのですが、持つ位置や相手が立っているか、座っているか、自分との位置関係はどのようになっているのかなどは、あまり気をつけていませんでした。これからは、全てのことに気をつかい、『大きな声であいさつ・返事・おじぎは15度』をつらぬいて、トライやる・ウィークの臨みたいと思います。こんなに素晴らしい授業をしていただいて本当にありがとうございました。

礼儀はやっぱり大事だなあと思いました。礼儀が良ければ印象もぐんと上がると思います。手をそえたりする仕草ひとつで好感度もちがうし、何より礼などをされた方の気持ちが良くなりそうだなあと思いました。トライやる・ウィークで事業所の方と関わる時やお客さんと関わる時にもつかっていききたいです。日常生活でも誰かに礼をする時にも活かしていきたいです。こんな礼儀について学べる機会なんてもうないかもしれないので、学べて良かったです。今日から意識してやっていきたいです。